

おわりに

本調査研究会は、昨年度の調査研究会において「公共トイレ音声案内システム」が視覚障がい者のサポートシステムとして有用であるとする検証実績とその実用化への課題を引き継ぎ、本システムを広く普及させるために、さらなる検討を加え、それぞれの地域において自らの活動として、分散的な普及に取り組むことができるよう、誰でもが利用して簡単にサービスを実現できる環境整備に向けての検証を行いました。

今回、モデルシステムとして検討した「分散入力型普及モデル」による「オープン基盤システム」のフィールド試験において、「公共トイレ音声案内システム」は十分に実用可能であることが検証されました。

今後は、本システムの導入による事業が開始され、各地の公共トイレ管理者、視覚障がい者やその支援団体等が、それぞれの地域において、自らの活動としての分散的な普及が、早期に図られることを期待するものです。

本システムによる音声案内サービスの提供については、「身体障がい者向け通信・放送役務提供・開発推進助成金」の助成対象となることから、本制度を利用することによる事業化も視野に入れながら、普及促進に努めていきたいと考えます。

おわりにあたって、本調査研究会に携わっていただいた関係団体及び構成員の皆様には感謝を申し上げます。

